

越谷型青面金剛像庚申塔

秦野 秀明

はじめに

「六臂」の青面金剛像庚申塔は、中央の手(第一手)の印や持物の違いで、一般的には「合掌型」と「剣人型」に分類される。中山正義氏は、この分類に当てはまらない「合掌型」でありながら「人身(シヨケラ)」を持つ「岩槻型青面金剛像庚申塔」の存在を報告した⁽¹⁾。

その改訂版によると、「持ち物」が十一種類、「三猿の配列」が五種類、「総数」が七十一基、「造立年代」が元禄元(一六八八)年から享保十九(一七三四)年までである。さらに、それぞれ二基(合計四基)の例外を除けば、「邪鬼」が横に臥さずに正面を向き、「三猿」は横向きではなく全て正面を向いている⁽²⁾。

一 越谷市内の「岩槻型青面金剛像庚申塔」

越谷市内に存在する「岩槻型青面金剛像庚申塔」は、

①野島五番 正徳三(一七一三)癸巳年十一月吉日 造立

野島 久伊豆神社⁽³⁾。

②大里四番 正徳四(一七一四)甲午十一月吉祥日 造立

大里 秀蔵院跡⁽⁴⁾。

③小曾川六番 正徳四(一七一四)甲午天十一月 造立

小曾川 慈眼寺跡⁽⁵⁾。

④大林六番 享保五(一七二〇)庚子年九月吉祥日 造立

大林 香取神社⁽⁶⁾。

である。

二 「越谷型青面金剛像庚申塔」

しかし、越谷市内には「合掌型」で且つ「人身(シヨケラ)」を持ちながら、享保十九年(一七三四)以降の造立で、「邪鬼」が横に臥して正面を向き、「三猿」は中央の猿以外の左右の猿が正面を向いていない二基の青面金剛像庚申塔が存在する。

①小曾川十四番 宝暦四(一七五四)戌天十一月吉日 造立

小曾川 F家側墓地⁽⁷⁾。

②恩間十四番 宝暦五(一七五五)亥天九月吉日 造立

恩間 勢至堂⁽⁸⁾。

である。尚、この二基は中山氏の報告にも含まれていない。

ゆえに筆者は、小曾川十四番、恩間十四番の二基を、「岩槻型青面金剛像庚申塔」の「亜型」である「越谷型青面金剛像庚申塔」として、ここに発表報告する。

むすびにかえて

中山正義氏は、その論文「岩槻型青面金剛像について」において、石工の創作について、次のように述べる。

それとも単に石工の創作が盛況をみたのだろうか、しかし四十余年の儂い流行の型態ではあった⁽¹⁾。

中山氏(一九八八)(一九九七)によって報告された「岩槻型青面金剛像庚申塔」の造立年代は、元禄元(一六八八)年から享保十九(一七三四)年までである。

元禄元(一六八八)年から享保十九(一七三四)年までは四十六年間あり、一人の石工が二十歳より創作を始めたと仮定すれば、四十六年間に渡り創作を続けた場合には六十六歳となる。

ゆえに、享保十九(一七三四)年を最後に「岩槻型青面金剛像庚申塔」が存在しなくなる事実は、一人の石工が創作活動を行う期間としては、妥当な範囲なのではないだろうか。

つまり、さいたま市岩槻区を中心に存在する「岩槻型青面金剛像庚申塔」は、実は、一人の石工によって作られたのではないかと推測される。

「小曾川十四番 宝暦四(一七五四)戊天十一月吉日造立の青面金剛像庚申塔」や、「恩間十四番 宝暦五(一七五五)亥天九月吉日造立の青面金剛像庚申塔」の造立年代である宝暦四(一七五四)年や、宝暦五(一七五五)年は、一人の石工にとってそれぞれ八十六歳、八十七歳となり、創作活動を行う年齢としては少々厳しいものがある。

つまり、「岩槻型青面金剛像庚申塔」を創作した石工とは、別人の可能性が高いと推測される。

註

(1)中山正義(一九八八)「岩槻型青面金剛像について」『野仏』

一九、二一―四

(2)中山正義(一九九七)「一九九七年一月版

岩槻型青面金剛像一覧表」

(3)～(8)越谷市立図書館に所蔵されている加藤幸一氏による越谷市内の石塔・石仏の悉皆調査の報告書より「番号等」を引用した。この場を借りて謝辞を述べる。

「岩槻型 青面金剛像庚申塔」

①野島五番 正徳三(一七一三)癸巳年十一月吉日 造立

野島 久伊豆神社 「舟型」⁽³⁾

持ち物

人	弓
合掌	
劍	矢

「邪鬼」は、横に臥さず、正面を向き、二手で踏ん張る。
「三猿」は、全て正面を向き、向かって左より口・耳・目を塞ぐ。

②大里四番 正徳四(一七一四)甲午十一月吉日 造立

大里 秀蔵院跡 「舟型」⁽⁴⁾

持ち物

人	弓
合掌	
劍	矢

「邪鬼」は、横に臥さず、正面を向き、二手で踏ん張る。
「三猿」は、全て正面を向き、向かって左より口・耳・目を塞ぐ。

③小曾川六番 正徳四(一七一四)甲午天十一月 造立

小曾川 慈眼寺跡 「角柱型様特殊型」(5)

持ち物

人	劍
合掌	
弓	矢

「邪鬼」は、横に臥さず、正面を向き、二手で踏ん張る。
「三猿」は、全て正面を向き、向かって左より口・耳・目を塞ぐ。

④大林六番 享保五(一七二〇)庚子年九月吉祥日 造立

大林 香取神社 「駒型」(6)

持ち物

人	劍
合掌	
弓	矢

「邪鬼」は、横に臥さず、正面を向き、二手で踏ん張る。
「三猿」は、全て正面を向き、向かって左より口・耳・目を塞ぐ。



②大里四番(4)
(2008・4・24
撮影)



②大里四番(4)
(2008・4・24
撮影)

「越谷型 青面金剛像庚申塔」

①小曾川十四番 宝暦四(一七五四)戌天十一月吉日 造立

小曾川 F家側墓地 「駒型」(7)

持ち物

人	劍
合掌	
弓	矢

「邪鬼」は、横に臥して、正面を向く。
「三猿」は、中央は正面を向き、左右は中央を望んで横を向き、向かって左より口・耳・目を塞ぐ。

②恩間十四番 宝暦五(一七五五)亥天九月吉日 造立

恩間 勢至堂 「駒型」(8)

持ち物

人	劍
合掌	
弓	矢

「邪鬼」は、横に臥して、正面を向く。
「三猿」は、中央は正面を向き、左右は中央を望んで横を向き、向かって左より口・耳・目を塞ぐ。

①小曾川十四番 宝曆四(一七五四)戌天十一月吉日 造立

小曾川 F家側墓地 「駒型」(7)



(2012・11・5撮影)

②恩間十四番 宝曆五(一七五五)亥天九月吉日 造立

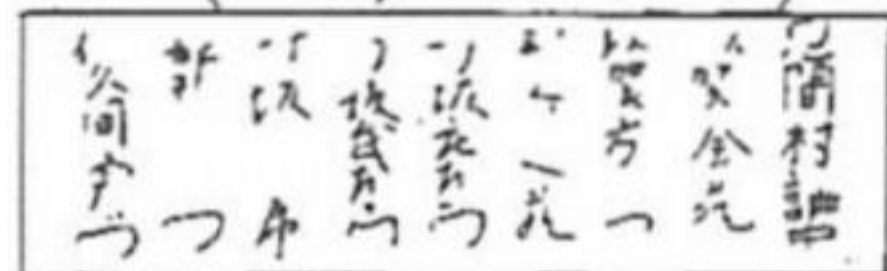
恩間 勢至堂 「駒型」(8)



(2012・3・1撮影)



越谷市立図書館に所蔵されている
加藤幸一氏による越谷市内の
石塔・石仏の悉皆調査の報告書より引用



越谷市立図書館に所蔵されている
加藤幸一氏による越谷市内の
石塔・石仏の悉皆調査の報告書より引用